

性教育における助産専攻学生による高校生に対する ピアエデュケーションの効果

坪川トモ子¹⁾・渡邊 典子¹⁾・田崎 充子²⁾・赤羽 礼子³⁾

1) 新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科

2) 新潟県三条地域振興局健康福祉環境部

3) にいがた思春期研究会

The Effect of Peer Education by Midwifery Students on High School Students' Sexual Education

Tomoko Tsubokawa¹⁾, Noriko Watanabe¹⁾, Mitsuko Tazaki²⁾, Reiko Akaba³⁾

1) NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY DEPARTMENT OF NURSING

2) HEALTH AND WELFARE ENVIRONMENT DEPARTMENT,
SANJYO REGIONAL DEVELOPMENT BUREAU, NIIGATA PREFECTURE

3) NIIGATA SOCIETY OF ADOLESCENCE RESEARCH

要旨

本研究は、性教育における助産専攻学生による高校生に対するピアエデュケーションの効果を明らかにすることを目的とした。助産専攻学生が行った性教育の授業を受講した高校生、860人の感想を質的記述的分析の手続きに基づき分析した。その結果、【知識の獲得や認識の深まり】、【自分を守ることの意識化】、【性行動への意志の芽生え】、【大学生から教わることへの評価】などの7つのカテゴリーが抽出され、サブカテゴリー別コード数の男女比較では、女子は《自分を大切に守る》などの3つが、男子は《相手への思いやり》が有意に高かった。助産専攻学生によるピアエデュケーションは、共感を高め肯定的に受け止められるピアエデュケーションの効果に加え、助産実習の体験を通して考えた命の尊さ、親への感謝、人工妊娠中絶の現実等を伝えることにより、性行動に関する自己決定や自己責任を促す効果があると考えられる。

キーワード

性教育、ピアエデュケーション、助産専攻学生、高校生

Abstract

This study investigates the effect of peer education delivered by midwifery students on high school students' sexual education.

Our research methodology involved 860 high school students, who took the sexual education program delivered by peer educators. They were then requested to answer a questionnaire about the impact of the program. We subjected the resulting data to detailed analysis using qualitative and descriptive analytical techniques.

Our findings identified seven categories of learning outcomes, including “knowledge gaining and deepening recognition”, “awareness of self protection”, “development of will toward sexual behavior”, and “appreciation for learning from university students”. In addition, comparisons within coded subcategories showed that girls listed three subcategories as important including “protecting yourself with respect” and boys put more emphasis on “a caring attitude to girls”.

We concluded that peer education by midwifery students demonstrated several effects. Outcomes included enhanced empathy and affirmative acceptance, as well as encouragement to self determination and self responsibility concerning sexual behavior through education on awareness about the preciousness of life, the gratitude to parents, the facts of abortion and similar issues. These were learned through sharing the experiences of practical midwifery training.

Key words

sexual education, peer education, midwifery students, high school students

I はじめに

日本における若者の性行動は、最近の約30年間において、性的経験率の上昇による「日常化」、性的経験自体が中高生の間で概ね肯定的に捉えられている中での「早期化」、女子の性的経験率の上昇による「男女差の消滅」という傾向が表れている¹⁾。このような現実を受け止め、将来の人生設計を構築していく時期である思春期、青年期の若者に対しては、望まない妊娠や性感染症を予防するための避妊や感染予防の正しい知識や情報と合わせて、性的行動にともなう社会的責任についての、広い意味での「自己責任」のもとで「自己決定」していくための的確な知識や情報を提供し、実践する力を身につけられるようにしていくことが、必要な課題となっている²⁾³⁾。

日本における母子保健対策を推進するために2001年からスタートした10年間の国民運動計画「健やか親子21」では、推進課題の一つ目に「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」を掲げている。その課題の水準指標のうち「十代の人工妊娠中絶実施率」と「十代の性感染症罹患率」は、2009年の第2回中間評価の結果では減少しているが、性に関する教育等、正しい知識の普及を図ることにより、両指標の一層の減少が期待されている⁴⁾。また、今後は、学校における教育内容の充実・強化と合わせて、地域保健福祉と学校保健、関係団体等との連携強化、地域の専門家や学校の連携をもとにした効果的な性に関する教育や健康教育の方法の検討、ピアカウンセラーの育成やピアカウンセリングの実施等が充実するべき具体的な取り組み方策として示されている⁵⁾。

思春期を対象にしたピアカウンセリングやピカウンセラーによるピアエデュケーションは新しい教育法として注目され、高村らによりピアカウンセラーの養成及びピアカウンセ

リングの実践におけるプログラムが開発され⁶⁾⁷⁾⁸⁾、現在では全国的な広がりを見せるようになってきている。高村は、思春期におけるピアカウンセリングとピアエデュケーションはともに、思春期のヘルスプロモーションの方策であり、若者が自分やパートナーの人生設計を壊さないように、性=生に関する意識や行動を自分で決められる能力（性=生の自己決定能力）を育てる健康教育法であるとし、ピアエデュケーションとは、同年代または所属を同じくするグループが、「正しい知識・スキルを共有し合うこと」としている。

日本における先行研究において、ピアカウンセリングやピアエデュケーションによる性教育の評価に関する報告は多くある¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。看護学生によるピアエデュケーションの効果については、山口らによる報告があるが、看護を学んでいることの効果には言及されていない。思春期における性教育には、ピア（仲間）であることに加え、医療や看護を学ぶ学生が行うことがより効果的であると考えられ、中でも、助産師養成課程を専攻する学生（以下、「助産専攻学生」という。）は、妊婦への妊娠中からの関わりや分娩介助を経験することから、リプロダクティブヘルスの視点からのメッセージを伝えることも期待できると考えられる。

そこで、本研究では、助産専攻学生が行う思春期性教育におけるピアエデュケーションの効果を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1. 研究対象

P 保健所のエイズ予防事業の一環で行ったQ大学助産専攻学生によるHIV/AIDS予防・性教育の授業（以下、「授業」という。）について、本授業実施年数が最も長いR高等学校（以下、「R校」という。）を対象校として、R校において2006年度から2010年度の5

年間に実施した授業を受講した高校生915人のうち、授業終了後の自由記載による100文字以内の感想（以下、「一言感想」という。）に記載があった男子351人、女子503人、性別不明6人、学年別では1年生537人、2年生178人、3年生139人、不明6人、計860人の一言感想を研究対象とした。1年生が多いのは、在校生全員に受講させたいとのR校の意向を踏まえ、初年度のみ全学年を対象とし、2年度目以降は1年生を対象としたためである。

授業実施時期は、初年度のみ12月、2年度目以降は7月末であり、日時は1学年単位で全学級を対象に同日の5限と6限を使い行った。

2. 授業を実施する助産専攻学生の背景

Q大学では助産専攻学生に対して授業実施者を募り、結果、毎年度、助産専攻学生の全員が希望した。助産専攻学生は、助産専門科目は全て終了し、かつ選抜試験に合格した学生である。初年度は学生全員が助産実習を終了し、2年度目以降は2/3の学生が助産実習を開始し3～5例の分娩介助経験している段階であった。

3. 授業の概要

授業の概要は表1のとおりである。タイト

ルはR校の希望に合わせて「自分で決める性行動～望まない妊娠と性感染症を防ぐために」とし、クイズやロールプレイングを組み込んだ全学級共通プログラムにより、助産専攻学生15～18人が2～3人ずつで1学級を担当して行った。

助産専攻学生は、学級担当ごとに媒体を各々オリジナルで作成したり、時間配分やシナリオなどの具体的な進め方を工夫し準備した。また、授業を行うにあたっては、単に知識やスキルを教えるのではなく高校生と同じ目の高さで伝えることを心掛け、クイズやロールプレイングを行いながら堅苦しくない雰囲気づくりに配慮した。

学級差が出ないように、大学内での準備の際に、過去にピアカウンセラー養成講座を企画・実施した実績のある助産師養成課程の教員（以下、「教員」という。）が事前学習の補助として、HIVを含む性感染症について、思春期の性行動の実態について、及び共通プログラムについて説明した。また、学生が作成したシナリオは、誤りがないか確認した。

4. データ収集方法

高校生の一言感想は、授業開始前に、目的と方法を説明し、自由記載による感想を依頼

表1 ピア・エデュケーション プログラムの概要

対象・時間	高等学校1年生 5限と6限の2時限	
タイトル	自分で決める性行動～望まない妊娠と性感染症を防ぐために	
構成	1. プレイン ストーミング	(内容例) 「冬」「恋愛」「妊娠」などから想像することは？
	2. ロール プレイング	(内容例) 「彼から性交渉を求められた、その時2人は？」 「彼女から妊娠したかもしれないと伝えられた、その時…？」
	3. ○×クイズ	(内容例) 性感染症、避妊、コンドームの使い方、HIV等について
	4. 講義	「自分で決める性行動～望まない妊娠と性感染症を防ぐために」
	5. まとめ	学生が助産実習で感じた、妊娠の喜びや不安、出産の感動と大変さ、育児の喜びや不安等を通し、思春期の健康の大切さを伝える。

した後に用紙を配布し、回収は授業終了時に行った。

5. 倫理的配慮

R 高等学校長及び養護教諭に対して事業評価と合わせて研究に使用することの了解を得たうえで、高校生に一言感想を依頼した。高校生に依頼する際は、研究目的、研究目的以外に使用しないこと、匿名性の確保、自由意思による参加、及び参加しないことによる不利益が生じない旨等を説明した。

6. データの分析方法

高校生が記述した一言感想をWordファイルに文字入力してデータ化し、自由記載の文章から、「学び」や「考え等の変化」に該当する文脈に着目し、意味の読み取れる単位で抽出して、できる限り記載の言葉に忠実にコード化した。

類似性と相違性を検討しながら類似した意味内容のコードを分類・整理し、集めた群の内容を適切に表現する簡潔な表題をつけてサブカテゴリー化し、さらに、サブカテゴリーを類似性と相違性を検討しながらグループ化し、集めた群の内容を適切に表現する簡潔な表題をつけてカテゴリー化した。

分析の妥当性を確保し、研究者による偏りを少なくし客観的に分析するため、分析は研究者4人で実施した。カテゴリー別コード数の男女の差については、それぞれの対象者数に占める割合をカイ2乗検定により比較した。なお、学年別の分析は、データ数に差があることから実施しなかった。

Ⅲ 結果

データ分析の結果、授業によって得られた高校生の「学び」「考え等の変化」として抽出されたコードは1,162であった。これらのコードは意味内容の類似性と相違性から20のサブカテゴリー、さらに7つのカテゴリーにまとめられた(表2)。

1. 授業によって得られた高校生の「学び」「考え等の変化」

導き出されたカテゴリーをコード数の多い順に記述する。カテゴリーは【 】, サブカテゴリーは《 》、コードは「 」で示す。

【知識の獲得や認識の深まり】

最も多かったカテゴリーであり、《新しい知識の獲得》《今までの知識の深まり》の2つのサブカテゴリーで構成され、コードは「保健の授業では聞いたことがないことまで知ることができた」「知らないことがたくさんあった」、「中学でも勉強したが今まで以上に深く学べた」などであった。

【自分を守ることの意識化】

このカテゴリーは、《行動の意識化》《自分を大切にし自分で守る》《自分事として考える》の3つのサブカテゴリーで構成され、コードは「ちゃんと考えて行動や決定をしなければならない」「自分を守るために無責任なことはしない」「自分に置き換えるとどうか少し考えた」などであった。

【性行動への意志の芽生え】

このカテゴリーは、《安易な性交渉をしない意志》《ポジティブな性の認識への変化》《安全な性行為の確認》の3つのサブカテゴリーで構成され、コードは「軽い気持ちで性行為をしてはダメだと思った」「改めて性交の怖さを知ったので彼氏の誘惑に負けない」「「性」がこんなにも重要だということを改めて思った」「性とは、最初は恥ずかしくイヤな事だと思っていたが本当はすばらしい事だとわかった」「出産できるまではコンドームを用いる」「3つのS (No-Sex, Steady-Sex, Safer-Sex) を守る」などであった。

【大学生から教わることへの評価】

このカテゴリーは、《楽しく学べた》《大学生への感謝》《大学生に対する好感》《わかりやすかった》《また受けたい》の5つのサブカテゴリーで構成され、コードは「〇×ゲームやロールプレイはみんなが参加でき楽

性教育における助産専攻学生による高校生に対するピアエデュケーションの効果

表2 「学び」や「考え・気持ちの変化」のカテゴリー化の結果

(n=1,162)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数	コードの主な記載
A 知識の獲得や認識の深まり (n=301)	1.新しい知識の獲得	159	・保健の授業で聞いたことのないことまで知ることができた。 ・知らないことがたくさんあった。 ・今まで知らなかった事が知れてとても勉強になった。
	2.今までの知識の深まり	142	・中学生でも勉強したけど今まで以上に深く学べた。 ・話がリアルでとてもためになった。 ・感染症については、改めて勉強すると深いなあと思った。
B 自分を守ることの意識化 (n=270)	3.行動の意識化	137	・ちゃんと考えて行動や決定をしなければならない。 ・今後は少し考えていきたい。 ・HIVに感染しないようにしたい。
	4.自分を大切に自分で守る	77	・自分の体をもっと大切にしていく。 ・自分を守るために無責任なことはしない。 ・イヤなときはイヤっていう勇気をもつ。
	5.自分事として考える	56	・他人事でなく自分事として生活していく。 ・性感染症は身近だと思った。 ・自分に置き換えるとどうか少し考えた。
C 性行動への意志の芽生え (n=171)	6.安易な性交渉をしない意志	64	・軽い気持ちで性行為をしてはダメだと思った。 ・むやみに性交渉はしない。 ・改めて性交の怖さを知ったので彼氏の誘惑に負けない。
	7.ポジティブな性の認識への変化	56	・「性」がこんなにも重要だということを改めて思った。 ・性とは、最初は恥ずかしくイヤな事だと思っていたが本当は素晴らしい事だとすぐわかった。 ・性に関する考えが変わった。
	8.安全な性行為の確認	51	・コンドームは絶対つける。 ・出産できるまではコンドームを用いる。 ・HIV・性感染症になりたくないからコンドームを使う。 ・3つ(NoSex, SteadySex, SaferSex)を守る。
D 大学生から教わることへの評価 (n=136)	9.楽しく学べた	72	・楽しくエイズや性感染症を学ぶことができ良かった。 ・O×ゲームやロールプレイはみんなが参加できて楽しかった。
	10.大学生への感謝	23	・色々教えてくれてありがとうございました。 ・少し恥ずかしかったけど大事なことを教えてくれてありがとうございました。
	11.大学生に対する好感	22	・大学生が話しやすい人で良かった。 ・大学生の人が話すのが上手でよく良かった。 ・歳が近いせいか論述には賛同できる点が多かった。 ・馴染みやすくて良かった。
	12.わかりやすかった	15	・とても分かりやすかった。 ・分かりやすい説明だった。
	13.また受けたい	4	・また聞きたい。 ・また来てもらいたい。 ・こういう講話だったらまたしてみたい
E 性感染症への認識の強まり (n=108)	14.感染症の危険性の認識	67	・性感染症はとても怖いと改めて知った。 ・HIVに感染すると大変。自覚症状がないのがこわい。 ・若い人の感染が増えている事を知りこわいと思った。
	15.HIV・性感染症等を学ぶことの大切さ	41	・性感染症の理解・知識を深める。 ・HIVや性感染症は学ばなければならない。 ・知らないことをもっと理解したい。 ・まだまだ知識不足だと思った。
F 妊娠・命への新たな認識 (n=94)	16.望まない妊娠の防止	60	・望まない妊娠・人工妊娠中絶は絶対しないようにする。 ・守君の立場にはならないよう日頃注意したい。 ・今の自分に子どもができたらといういろいろ考えた。 ・知識をもつことで望まない妊娠を減らせる。
	17.命の大切さ	34	・命を大切にすること。 ・子どもを作るってことを簡単に考えてはいけない。 ・命の大切さと責任の重さがわかった。
G パートナーや親との関わりの見直し (n=64)	18.相手への思いやり	40	・女性に対し責任のある行動をしたい。 ・相手の気持ちをよく考えたい。 ・お互いの性を尊重し話し合える関係がベスト。 ・相手の事を考えて性行為を遅らせる。
	19.親への感謝	15	・自分の誕生日には親に感謝してみようと思った。 ・両親に感謝して後悔しないようにする。 ・うざいと思う時もあるけど親がいなかったら自分もいないんだと思った。
	20.慎重なパートナー選び	9	・SEXは信頼できる人と良く知ってからする。 ・性感染症にかかったり、妊娠した時に逃げる男性とは付き合わない。 ・本当に大切な人は一生人生を共にする人。
G. その他		18	

しかった」「少し恥ずかしかったけど大事なことを教えてくれてありがとうございます」「馴染みやすくて良かった」「とても分かりやすかった」「また聞きたい」などであった。

【性感染症への認識の強まり】

このカテゴリーは、《感染症の危険性の認識》《HIV・性感染症等を学ぶことの大切さ》の2つのサブカテゴリーで構成され、コードは「感染症はとても怖いと改めて知った」「若い人の感染が増えている事を知りこわいと思った」「HIVや性感染症は学ばなければならない」などであった。

【妊娠・命への新たな認識】

このカテゴリーは、《望まない妊娠の防止》《命の大切さ》の2つのサブカテゴリーで構成され、コードは「望まない妊娠・人工妊娠中絶は絶対しないようにする」「知識をもつことで望まない妊娠を減らせる」「子どもを作るってことを簡単に考えてはいけない」「命の大切さと責任の重さがわかった」などであった。

【パートナーや親との関わりの見直し】

このカテゴリーは、《相手への思いやり》《親への感謝》《慎重なパートナー選び》の3つのサブカテゴリーで構成され、コードは「女性に対し責任のある行動をしたい」「お互いの性を尊重し話し合える関係がベスト」「自分の誕生日には親に感謝してみようと思った」「性感染症に罹ったり、妊娠した時に逃げる男性とは付き合わない」などであった。

【その他】

このカテゴリーは、「まだ学生なのに3人もとりあげているのに驚いた」「守君と愛ちゃんの劇がすごく恥ずかしかった」「誕生日には色々な意味が有ると思った」など、前述の7つのカテゴリーに分類できないコードであった。

2. サブカテゴリー別コード数の男女比較

1) サブカテゴリー別コード数の男女の比較

サブカテゴリー別コード数割合の男女の差の検定結果、有意に差があったサブカテゴリーは4つであった。女子が有意に多かったのは《自分を大切にし自分で守る》《自分事として考える》《望まない妊娠の防止》であり、男子が有意に多かったのは《相手への思いやり》であった(表3)。

2) サブカテゴリー別コード数割合の男女別順位比較

サブカテゴリー別コード数割合を男女別に多い順位を比較した結果、2位と3位の違いはあるが、男女とも上位3位までは、《新しい知識の獲得》(男20.2%、女17.3%)、《今までの知識の深まり》(男17.7%、女15.9%)、《行動の意識化》(男15.7%、女16.3%)であった。

しかし、4位以降は男女に違いがあり、男子は《ポジティブな性の認識への変化》(8.3%)、《楽しく学べた》(7.7%)、《安全な性行為の確認》(7.1%)、《相手への思いやり》(7.1%)と続くのに対し、女子は《自分を大切にし自分で守る》(11.7%)、《望まない妊娠の防止》(9.3%)、《感染症の危険性の認識》(8.9%)、《安易な性交渉をしない意志》(8.7%)、《楽しく学べた》(8.7%)と続いていた。

表3 サブカテゴリー別コード数割合の男女比較

サブカテゴリー	性別	コード数		割合 (%)		p値*	比較
		男	女	男	女		
1.新しい知識の獲得	男	71		20.2		0.277	n.s.
	女	87		17.3			
	不明計	1	159				
2.今までの知識の深まり	男	62		17.7		0.496	n.s.
	女	80		15.9			
	不明計		142				
3.行動の意識化	男	55		15.7		0.804	n.s.
	女	82		16.3			
	不明計		137				
4.自分を大切にし自分で守る	男	16		4.6		0.0002 [※]	p < 0.01
	女	59		11.7			
	不明計	2	77				
5.自分事として考える	男	15		4.3		0.024 [※]	p < 0.025
	女	41		8.2			
	不明計		56				
6.安易な性交渉をしない意志	男	20		5.7		0.095	n.s.
	女	44		8.7			
	不明計		64				
7.ポジティブな性の認識への変化	男	29		8.3		0.051	n.s.
	女	25		5.0			
	不明計	2	56				
8.安全な性行為の確認	男	25		7.1		0.235	n.s.
	女	26		5.2			
	不明計		51				
9.楽しく学べた	男	27		7.7		0.582	n.s.
	女	44		8.7			
	不明計	1	72				
10.大学生への感謝	男	10		2.8		0.814	n.s.
	女	13		2.6			
	不明計		23				
11.大学生に対する好感	男	6		1.7		0.181	n.s.
	女	16		3.2			
	不明計		22				
12.わかりやすかった	男	9		2.6		0.133	n.s.
	女	6		1.2			
	不明計		15				
13.また受けたい	男	3		0.9		0.167	n.s.
	女	1		0.2			
	不明計		4				
14.感染症の危険性の認識	男	22		6.3		0.152	n.s.
	女	45		8.9			
	不明計		67				
15.HIV・性感染症等を学ぶことの大切さ	男	13		3.7		0.210	n.s.
	女	28		5.6			
	不明計		41				
16.望まない妊娠の防止	男	13		3.7		0.0015 [※]	p < 0.025
	女	47		9.3			
	不明計		60				
17.命の大切さ	男	13		3.7		0.728	n.s.
	女	21		4.2			
	不明計		34				
18.相手への思いやり	男	25		7.1		0.004 [※]	p < 0.05
	女	15		3.0			
	不明計		40				
19.親への感謝	男	3		0.9		0.093	n.s.
	女	12		2.4			
	不明計		15				
20.慎重なパートナー選び	男	2		0.6		0.352	n.s.
	女	6		1.2			
	不明計	1	9				
21 その他	男	9		2.6			
	女	9		1.8			
	不明計		18				

* X²検定 n.s. non-significant

IV 考察

1. ピアエデュケーションの受け止められ方

助産専攻学生による授業を受けた高校生の一言感想の分析結果、《楽しく学べた》、《大学生への感謝》、《大学生に対する好感》、《わかりやすかった》、《また受けたい》など、【大学生から教わることへの評価】が表れていることから、同年代に近い人からの性教育は、肯定的で共感を高め受け入れられやすいと考えられる。教師と生徒という関係ではない同じ年代のピア（仲間）による教育は、素直な心で態度や行動の変容が起き¹⁶⁾、その結果、【新しい知識の獲得や認識の深まり】を促すと考えられる。

2. 学びや考え・気持ちの変化について

スキル教育には、自分以外の人があるかを知るためのブレインストーミング、いろいろな場を設定してのロールプレイングなどが効果的であり、スキルの習熟と並行して自分がどのように意思決定しようとしているのかを知ることが必要である¹⁷⁾。本研究の授業のように、ブレインストーミング、ロールプレイングを取り入れ、自分自身と同級生の考えを共感・共有しながら意思決定について考えていくように進めることにより、【性行動への意志の芽生え】が出てきて、【自分を守ることの意識化】をするようになると考えられる。また、単に知識やスキルを教えるのではなく、クイズを行いながら楽しい雰囲気の中で性に対する恥ずかしさを緩和しながら、高校生と同じ高さの目線で伝えることを心掛けることは、単に知識やスキルを教える教育ではなく、仲間と共感しながら堅苦しくない雰囲気の中で行うことができ、学びを促すことができた効果であると思われる。

さらに、【妊娠・命への新たな認識】、【パートナーや親との関わりの見直し】は、ロールプレイングを通じ「性交渉」や「妊

娠」を考え合ったことに加え、助産専攻学生がピアエデュケーターである効果と思われる。共通プログラムによる授業のまとめでは、助産専攻学生一人ひとりが自分の言葉で助産実習を通して学び感じたこと等を伝えている。内容は、生命が誕生する感動や命の大切さ、相手への思いやりや親への感謝、また人工妊娠中絶の現実等である。抽出したコードは「子どもを作ることを簡単に考えてはいけない」「命の大切さと責任の重さがあった」「女性に対し責任のある行動をしたい」「両親に感謝して後悔しないようにする」等であり情緒面に効果があると思われる。これは助産専攻学生が、教科書の知識を大人の代わりに説明する存在ではなく、自らの経験に基づき生の声で語ることにより高校生の心に響くメッセージを伝える存在¹⁹⁾となっていることによる効果であり、さらにこれらは、妊娠・命、パートナーや親との関わりを考えながら、前述の【性行動への意志の芽生え】や【自分を守ることの意識化】にも繋がっていくと思われる。

参加型プログラムにより楽しくかつ高校生に考えさせながら進めたことに加え、助産専攻学生には、リプロダクティブヘルスの視点からのメッセージを伝えられるという強みがあり、その結果、授業を受けた高校生には自分自身や性、相手への思いやり、学びを活かしたい等の気持ちの変化が見られることから、性の自己決定の大切さの理解を促し、安易な性行動の抑制のきっかけになると考えられる。

3. 学びや考え・気持ちの変化の男女差について

近年、女子の性行動の活発化が指摘され、その背景には、男女の平等化と性別役割の否定という流れがある²⁰⁾。しかし、そのような時代の流れにおいても、性行為の結果、女性は妊娠や性感染症という現実を引き受けるという情報を伝えながら、自己決定と自己責任の

大切さを伝えることが思春期の性教育には求められている。

本研究において、「自分で決める性行動～望まない妊娠と性感染症を防ぐために」と題した授業では、女性性と男性性の違いを情報提供しながら、妊娠や性感染症の正しい知識を共有できるように努めた。その結果、女子は男子より《自分を大切に守る》、《自分事として考える》、《望まない妊娠の防止》が有意に高い結果を得ることができ、また、男子は女子より《相手への思いやり》が有意に高い結果を得ることができた。これは、女子も男子にも、性差を受け止めながら、自己決定や自己責任を促す効果があったものと考えられる。

4. 助産専攻学生によるピアエデュケーションの可能性

高村のマニュアルでは、ピアカウンセリングやピアエデュケーションを実践するための必要要件の一つにピアカウンセラーやピアエデュケーターの養成と確保があり、これは重要な鍵であり、性に関する正しい知識を習得し、訓練を積むことが必須とされている²¹⁾。また、30時間の養成基本編と15時間の養成継続編とがモデル的養成講座として示されており、ピアカウンセリングやピアエデュケーションの実施に関する先行研究¹³⁾¹⁴⁾¹⁵⁾で、モデル的養成講座を受講したピアカウンセラーらによる実施を研究方法として報告されているように、全国的に広がっている。また一方で、上田らによるピアエデュケーターの自己肯定意識に関する報告²²⁾では、ピアエデュケーターが自律的に学習する方法が用いられ、モデル的養成講座だけでない可能性が示唆されている。

本研究においてピアエデュケーションを行った助産専攻学生は、モデル的養成講座を受講していない。本研究の助産専攻学生は「助産、命の誕生に関わりたいという強い意志が有る」、「助産専攻課程を履修するため

の選抜試験を受験し合格した」、「高校生へのピアエデュケーション実施者募集に対し希望を申し出た」という点で、高村がモデル的養成講座の受講条件としている「学ぶ意欲がある」²³⁾ことに該当しており、ピアエデュケーターとしての前提条件は十分満たしていると考えられる。

授業を企画するにあたっては、教員によりHIVを含む性感染症の基礎知識、思春期の性行動の実態、対象高等学校の生徒の性行動や性教育に関する実態、共通プログラムの内容について、3～4時間の事前レクチャーを受けている。また、健康教育や保健指導の技法については、統合カリキュラムによる教育であるため4年次までの間に保健師専門科目の履修により演習や実習で体験し学んでいる。

助産専攻学生の最大の特徴は、分娩介助実習を経験することである。本研究では、2年度目以降の授業は実施時期が7月であり、学生の2/3は助産実習を開始し3～5例の分娩介助を経験している。その経験が授業に生かされることがR校の最も期待していたことであり、結果に反映されていると考えられる。

以上のように、モデル的養成講座ではなくても、助産専攻学生は履修課程にピアエデュケーションに必要な要件を整えやすく、さらに分娩介助の経験が一層、効果的なピアエデュケーションの実施を可能にすることが考えられる。

5. 本研究の限界と今後の課題

本研究はP保健所管内でピアエデュケーションによる性教育を最も早く実施し5年間継続できたR校を研究対象とした。R校は、本授業を開始する前から全校生徒を対象にした外部講師による性教育を年1回実施していた等、養護教諭を中心として性教育に関する取組が積極的で、校長の理解もある高等学校である。このような学校全体が性教育に関する理解がある環境で学ぶ高校生には、ピアエデュケーションも受け入れられやすく、プラ

スの効果が出やすいというバイアスが結果に反映したことは考えられる。今後は、学校側の性教育に関する理解や取組みの差が学生の学びに及ぼす影響など、環境による学びへの影響も検討課題としたい。

V 結論

思春期性教育における助産専攻学生が行うピアエデュケーションは、授業を受けた高校生の一言感想を分析した結果、以下のような効果があることが示唆された。

1. 共感を高め肯定的に受け入れられやすく、新しい知識の獲得や今までの認識の深まりを促す。
2. 助産専攻学生の強みを活かし、参加型プログラムにより進めたことに加え、助産専攻学生一人ひとりが自分の言葉で助産実習を通して学び感じたことを伝えることにより、性の自己決定の大切さの理解を促し、安易な性行動の抑制のきっかけになる。
3. 高校生女子には、自分を大切に守る、自分事として考える、望まない妊娠の防止を考えるきっかけになり、高校生男子には、相手への思いやりを考えるきっかけになる。

謝辞

本研究にご理解とご協力をいただきましたR高等学校と高校生の皆様に深く感謝申し上げます。

注・引用文献

- 1) 財団法人日本性教育協会. 「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告. 13-17. 東京:小学館;2007.
- 2) 前掲1) 18.
- 3) 高村寿子(編). 思春期の性を支えるピアカウンセリング・マニュアル ピアカウンセラー(学生)版. 12. 東京:小学館;2005.
- 4) 厚生労働省 「すこやか親子21」の評価等に関する検討会. 「すこやか親子21」第2回中間評価報告書. 8-9. <<http://www.mblw.go.jp/bshingi/2010/03/s0331-13a.html>>2012. 12. 25.
- 5) 前掲4) 24-25.
- 6) 高村寿子(編). 性に関する思春期保健教育のためのマニュアルの開発と教材作成に関する研究. 平成16年度厚生科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 子ども家庭総合研究. 2004.
- 7) 高村寿子(編). ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究. 平成15年度厚生科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 子ども家庭総合研究. 2003.
- 8) 高村寿子(編). ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究(総括研究報告書). 平成14年度厚生科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 子ども家庭総合研究. 2002.
- 9) 前掲3) 15-18.
- 10) 大石由紀子、木戸久美子、林典子、他. ピアサポート・ピアカウンセリングにおける文献展望. 山口県立大学社会福祉大学紀要. 2007;13:107-121.
- 11) 友岡愛、大野佳子、池ノ上由貴、他. 日本におけるピアカウンセリングが高校生の性の自己決定に及ぼす影響に関する文献研究. 鹿児島大学医学部保健学科紀要. 2009;19:41-48.
- 12) 加藤千恵子、高橋里奈、谷内このみ、他. 高校1年生の性知識と性意識の変化から見るピアエデュケーションの効果. 日本看護学会論文集. 母性看護. 2009;40:135-137.

- 13) 安達久美子、高田昌代、西澤由香、他. ピアエデュケーションを用いた性教育に対する高校生の受け止め方. 神戸市看護大学紀要. 2006; 10:33-41.
- 14) 前田ひとみ、渡邊至、高村寿子. 高校生を対象とした大学生ピアカウンセラーによる思春期ピアエデュケーション講座の評価. 思春期学. 2009;27(1):63-64.
- 15) 山口典子、下山博子、塚本康子、他. 看護学生ピアサポーターによる高校生に向けたピアエデュケーションの効果. 新潟医療福祉学会誌. 2009;9(1):36-36.
- 16) 前掲3) 13.
- 17) 木村正治. 中・高校生に対するライフスキル学習を基盤においた性教育. 生活教育. 2001; 45(1):41.
- 18) 前掲3) 18.
- 19) 遠見才希子、岩室紳也. 本当の‘ピア’が語る「若者の心に響くメッセージ」. 思春期学. 2009;27(1):64.
- 20) 前掲1) 17.
- 21) 前掲3) 14.
- 22) 上田伊佐子、高木彩、川西千恵美. 性のピアエデュケーションにエデュケーターとして参加した看護学生の体験と自己肯定意識の変化. The journal of nursing investigation. 2003;9 (2):1-8.
- 23) 前掲3) 21.